

中山かんのん

恩林寺

中山中学下、電話三四一―一二四五

業ごう(その一)

業とは人間のなす行為、振る舞いのことであります。ふだん、この言葉は良く使います。たとえば(前世の宿業)とか(自業、自得)(業が深い)などのようです。この業には過去の業と、現在の業があります。過去の業は宿業といわれ身に覚えの無い業、人間の力ではどうにもできない業のことです。たとえば飛行機事故に出会うようなことです。つまり自分の力を超えたもの、予測のできない避けることのできない災難などを宿業といえます。それにたいして現在の業は身・口・意・の三業によって生ずるものであります。身業とは身体で行うもの行為であり口業とは口で行う行為、つまり口で言うことでもあります。また意業とは心で行う行為のことです。これらの行為が集まって未来の結果を生むのです。業には善なるもの、悪なるもの、善悪どちらにも決められないものがあります。善因全果、悪因悪果という言葉があります。

つまり善い行いをすれば善い結果を生み、悪い行為をすれば悪い結果を生ずるということです。しかし現実の問

おてら

出に行こう。

おしょうさんと

ともたち

友達になろう。



題として必ずしもこのようにならない

場合もあるようです。たとえば、あ

んなに悪いことばかりしているやつ

がどうして罰があたらないのか？ど

うしてあんなに幸せそうなんだろ

う？とか私は別に悪いことをしたわ

けでもないのにどうしてこんな不幸

な目にあうのだろう。と、いったとこ

ろです。現実には世の中にはこのような

矛盾したことが多いようです。それで

はこの業というものをどのよう

に解釈したらよいのでしょうか？そのた

めに因縁というものを考えねばなり

ません。いかなる結果にも必ず原因と

いうものがあります。この原因には直

接な原因と間接な原因というものが

あります。いくら働いても楽にならな

いのは社会全体が不景気であったり

生まれた家が貧乏で学校に行けな

ったり、会社が倒産寸前だったり子供

が多かったり親、兄弟の面倒を見な

ければならなかったり、直接本人の責任

でないように見えるさまざま原因

があるからなのです。つまり、業とい

うものは自分自身の行為であつても

消して他人の行為やその他の世の中

の現象とは無関係ということはある

えないということです。